

今月は、障害をもった幼児に関する記事が多く掲載してあります。

田口恒夫氏はお茶の水女子大学で言語障害を専攻しておられ、幼児保育の理解者です。障害をもった幼児という点、何か普通の子どもとは違った特別な種類の子どものように考えられがちです。そうして、普通の幼稚園には入れてもらえない傾向があります。しかし、保育の観点からいうならば、普通の子どもと同じ感覚でつき合うことのできる子どもたちであり、子ども同士の間では、何ら差別意識なく、あたりまえに仲間になれる者同士です。最近の幼稚園は、ある水準以上の子どもだけを対象として、それ以下の子どもは入れない傾向がありますが、それでいいのでしょうか。

最初は、幼稚園の諸条件からいって、指導しやすい子どもだけを入れて、それ以下の子どもを落とすのは、やむを得ないことだといわれてきました。ところが、次第に、ある水準以下の子どもを幼稚園に入れると他の子がめいわくする。このような子どもは一まとめにして別の

種類の教育をすべきだというように、理くつがついてきます。そして親子ともどもに、優越感と劣等感が生まれてきます。今回の中教審の答申が実際に移されたとき、この傾向がますます助長されるのではないかと案じます。中教審の問題については、まだ発表されたばかりでくわしいことはわかりませんが、次号以下で扱ってゆくつもりでいます。

倉橋惣三選集第三卷（フレールベル館発行）の折り込みのパンフレットの中に、「はいれない子にも薫れや梅の園」という句の色紙が写真版でのっています。入れてやらないのは当然だ、むしろ入れるべきではないという議論とは、何と対照的な心でしょう。幼児教育は初心にかえって、この問題を考え直すべきでしょう。

.....
時間と空間の問題を、いろいろの角度から扱っていますが、今月は理論物理学者として、第一線で活躍しておられる柳瀬睦男氏に書いていただきました。幼児教育とどこで結びつかを考えてください。
(津守)

幼児の教育 第七十巻 第九号

九月号 © 定価一〇〇円

昭和四十六年 八月二十五日印刷
昭和四十六年 九月 一 日発行

112 東京都文京区大塚二ノ一
お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

112 東京都文京区大塚二ノ一
お茶の水女子大学附属幼稚園内
発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村一ノ一
印刷所 凸版印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一
発売所 株式会社 フレールベル館
振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所フレールベル館にお願いたします